

ゲリラ豪雨で
浸水被害
1000棟以上

思い切った予算投入で、目にみえる 浸水防止対策を



市議
森
ケイ子



飛高町の般若川調節池

8月23日・27日未明の記録的豪雨で、市内各地に甚大な被害が発生。党議員団は被害状況を調査し、寄せられた要望をもとに9月議会で抜本的な浸水対策等について提案を行いました。

深夜などの緊急事態の対応は、地域の力も借りて

土のうの保管や搬送、交通規制等は、市役所だけではなく、消防団、市民の協力を得て、できるだけ現地で対応できるようにする。

市治水計画は30年がかり…そんなに待てません！

市の治水計画は「5年に1回程度発生する降雨（時間雨量52.4ミリ）への対応策」で、計画期間は30年。しかし今回は想定をはるかに超える雨量となり、東海豪雨を上回る被害でした。治水計画を見直し、ぼつぼつではなく思い切った予算の投入で、目に見える対策を進めるよう主張しました。

雨水を側溝に流さない対策を、重点地域決め推進を

江南市の被害は、側溝や用水の水があふれる浸水が特徴。最も重要な防止策は、各々の住宅や店舗・工場・駐車場などが浸透ますや貯留タンクを設置し雨を側溝に流さない、流出抑制です。これまで

も貯留施設の設置に補助を行ってきましたが、年に数10基では効果は出ません。重点地域を決め一斉に設置することを提案しました。

般若川調節池・分水池への流入量を増やすこと

改修が進んだはずの般若川沿いに大きな被害が出ました。飛高にある調節池は豪雨の時、般若川の水を毎秒3トン貯留し、下の分水池は、毎秒10トンを青木川放水路に流入させる仕組みです。分水池の越流堰を下げてより多くの水を流入させ、下流域への負担を低減できないかと質しました。

日光川流域への抜本的な対策を

江南団地西が源流の日光川は、県の2級河川でありながら上流域では今まで何ら対策もないまま。今回のゲリラ豪雨でも周辺に大きな被害が出ました。当面、最上流部に調節池を設置するよう県に働きかけることを求めました。

市当局は、「5月に日光川河川整備計画ができたので、一宮市とも協議を進めたい。般若川の調節池・分水池についても県と協議する」との答弁でした。

巡回バス それでは遅すぎます！

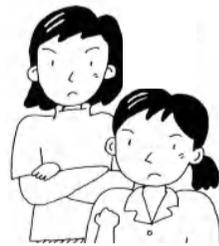
7月に発足した市内巡回バス等検討委員会の取り組み状況を質問したところ「H24年度中に委員会としての意見をまとめ、一定の方向づけをし、できればH26年をめどに実施できるか」との答弁。

森議員は「それではあまりにも遅すぎる。1日も早く実施してほしいと願っている市民の期待に応え、来年度中には試行運転ができるよう」強く求めました。

*その他に、発達障害児支援ネットワーク、地震防災対策について質問しました。

「原発からの撤退を求める請願」を市議会が不採択に

9月市議会に、新日本婦人の会江南支部から「原発から撤退し、再生可能エネルギーへの転換と放射能汚染から子どもの健康と命を守る対策を求める請願」が提出されました。しかし日本共産党議員団と社民党議員の4人が賛成したのみで、請願は不採択とされてしまいました。



日本共産党議員団を代表して、かけのまち子議員が賛成討論。「原発は人類が完全に制御できない未完成な技術。地震国日本に立地し続けることは許されない。首相は再稼動に前向きだが、規制機関もないまま、一定の安全対策をとったので安全だというならば新たな安全神話の誤りに落ち込むことになる。」「岩倉市や小牧市は、独自に放射線測定機器を購入し調査する補正予算を組んだりしている。江南でも、専門家に指導を仰ぎ、系統的に調査し公表する必要がある」と採択を求めました。

一方、自民系・公明・民主党議員は、「政府も中長期的に原発依存度引き下げの方向なので、意見書を提出する必要はない」「江南周辺市の放射線量観測結果を注視すれば市独自調査は必要ない」などと不採択とし、市民の願いにまたもや背を向けました。

どうして反対？

野田首相は国連で原発推進をはっきり表明したのに…。敦賀や浜岡で事故が起きれば、ここでもすぐに福島と同じことになるのでは？ 心配です。

国民の8割が「脱原発」支持なのに、なぜ市議会は反対なんですか。信じられません。(市民の声)